



小川 剛 (清風クラブ)

教育現場の働き方・新しい教科への対応・部活動の少子化対策・外国籍児童・学校の環境について

教職員の働き方改革について

学習支援員の配置は。

生徒指導推進支援員を26名配置し、県費負担のスクールサポートスタッフは市内3校に配置されています。多忙化解消に向け、人員増を県へ要望します。

スクールロイヤー制度は学校内の増加するトラブル対応にもつながるが、配置の考えは。

法対応が求められる案件の発生に備え導入を検討します。

改正公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法の変形労働時間制導入の当市の考えは。

多忙な月の超過勤務時間を見定めるものとして認めるものです。導入は県の動向を注意し、実効性を検証します。

新しい教科への対応について

プログラミング教育の課題は。

通信の環境整備や端末整備を進め、教職員の知識や指導力の

向上を継続して図ります。

部活動の少子化対策について

生徒のやりたい部活動がない場合の対応は。

学校規模や教職員の配置で対応できない事は承知しています。

合同チーム結成は中体連の規定もある。学校長の理解や保護者、教育委員会と議論することが大切。今後の考え方は。

生徒数減少等で部活動が維持できない場合は、学校間での合同チーム結成が考えられます。



小学校プログラミング教育風景



櫻井 ひろ江 (日本共産党安中市議員)

病院事業・子育て支援拠点整備事業・高齢者施策・新型コロナウイルス感染症について

碓氷病院の経営会議について

昨年5月から院長中心に立ち上げたが、内容はどうか。

病床稼働率の向上や、薬剤部、放射線科等、部門ごとのコスト削減やダウンサイジングの検討などを行いました。

成果はどうか。

職員自らが病院の経営改善に取り組む姿勢の向上が見られたことです。例としてリハビリテーションの充実による在院日数の伸長を図る案が出され、職種間を超えたプロジェクトチームが結成されました。

病院スタッフのはつらつとした働きぶりが、病院の魅力につながる。職員のレベルアップをどう考えているか。

自己研鑽はもちろん、病院として様々な院内研修を実施しています。

他病院との人事交流や外から

の風を入れる考えは。

民間病院等への相互研修派遣などの検討や、積極的な専門学校の研修生受け入れを行います。

経営の抜本的な改革について

専門的な知識のある管理者を置き、公営企業法全部適用にしてはどうか。

赤字削減に努めながら、経営形態の変更も研究検討します。

その他、子育て支援拠点事業、高齢者の補聴器購入補助、新型コロナウイルス感染症等を質問しました。



碓氷病院の外来待合室

●スクールロイヤー…学校内で起こる、いじめや学級崩壊、不登校、体罰、教職員と保護者のトラブル等の課題に法律的なアドバイスを行う弁護士のことです。

●公営企業法全部適用…地方自治体の病院事業は、地方公営企業法のうち一定の部分(会計など)のみしか自動的に適用されませんが、条例で、組織や職員の身分の取扱い等を規定し、公営企業法を全面的に適用することです。